

新見

【つなげる、つづける、つづける】 中山間地域での食支援を考えるシンポジウム

新見公立大学NIU「喰養」
主催：全世代型地域包括ケア研究センター



Niimi University



NIU

2025 <https://www.niimi-u.ac.jp>

中山間地域での多職種連携・協働
宮原直科 院長 宮原康太 先生
新見中央病院 松本真季 先生

【特集】

「摂食嚥下障害看護認定看護師教育課程(B課程)」が認可されました。

Event & News

各学科の取り組み紹介
藤原 先生
夢に向かって活躍している学生たち

教員の活動紹介

看護学科教授 塩見和子

同窓会だより

お知らせ
在学生・学内情報
奨学金のお知らせ

摂食嚥下障害看護認定看護師の役割

- 摂食嚥下機能とその障害の評価
- 摂食嚥下機能の評価結果に基づき適切な援助・訓練方法の選択、
嚥下機能の増進防止に向けたリスク管理など

「食べる」「飲み込む」機能の問題に対して
専門性の高い看護を提供する
認定看護師です



治療だけに頼らない！
「看護」として人の心に寄り添うことを大事に

写真はご本人・ご家族の了承を得て掲載しています
新見公立大学NIU「喰養」×中山間地域での食支援を考えるシンポジウム(2024.11.9)

第一部 講演

「新見市の医療の現状と課題」 講師 新見医師会 会長 吉田 徹 先生

「摂食嚥下障害看護認定看護師の役割と活動展望」
講師 新見公立大学 全世代型地域包括ケア研究センター 飯田 尚美 先生

①「摂食嚥下障害看護」認定看護師教育課程（B 課程）

2025年春 西日本で唯一の「摂食嚥下障害看護」分野の 認定看護師教育機関としてスタート！

この教育課程は、西日本では初開講であり、全国でも4番目の講座となります。今後需要がますます増える分野であり、西日本での開講が長らく待たれていました。

摂食嚥下障害看護分野において、看護実践を通して看護職に対し指導を行える能力を育成するとともに、多職種と協働し、チーム医療のキーパーソンとしての役割を果たせる能力を育成することを目標にします。

新見公立大学の優れた講師陣と、実践経験豊富な専任教員達の支援の下での1年間の講義、演習、実習を終えた暁には、必ずや自分たちが働いている地域の看護の質向上に貢献し得る人材となってくれることでしょう。

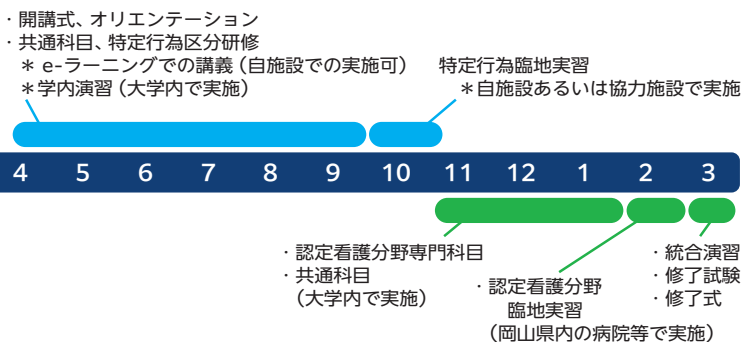
摂食嚥下障害看護認定看護師教育課程長
久保 俊英



認定看護師とは、看護師として5年以上の実務経験を有し、日本看護協会が定める約800時間の認定看護師教育を修了し、認定審査に合格した看護師に与えられる資格です。認定看護師は、専門的な教育と実務経験を活かし、看護現場で「実践」「指導」「相談」の3つの役割を担い、看護ケアの広がりや質の向上を図ることが期待されています。

近年、加齢や発達上の課題、疾病や治療の影響による摂食嚥下機能に障害をもつ人に対して、医療機関や介護施設、在宅などの多様な環境で、チームの一員として多職種と連携しながら、質の高いケアを提供できる看護師が求められています。このような状況を踏まえて、新見公立大学では、日本看護協会の認定を受けて、2025年4月より特定行為研修を組み込んだ「摂食嚥下障害看護」分野の認定看護師教育課程を開講します。

【本教育課程での開講スケジュール】（4月～翌3月）



保健師・助産師・看護師の
免許を取得

実務経験5年以上
（うち3年以上は認定看護分野）

認定看護師教育課程を修了

認定審査に合格

認定看護師として登録

認定看護師

※特定行為研修を組み込んでいる(B 課程)19 分野

感染管理	心不全看護
緩和ケア	摂食嚥下障害看護
在宅ケア	認知症看護
新生児集中ケア	がん薬物療法看護
生殖看護	呼吸器疾患看護
乳がん看護	小児プライマリケア
皮膚・排泄ケア	腎不全看護
がん放射線療法看護	糖尿病看護
クリティカルケア	脳卒中看護
手術看護	

本教育課程では、全世代あらゆる方々の「口から食べる」という人間の尊厳を守るため、「食べる」「飲み込む」機能の問題に対応できるための専門的かつ高度な看護実践能力を養い、広く社会に貢献できる看護師を育成します。

② 鳴滝塾 X 『中山間地域での食支援』について

本学の全世代型地域包括ケア研究センターは、課題先進地域にある地の利を活かして中山間地域の健康・生活課題を追求し、産学官民協働での解決の方策を実践モデルとして構築するために、2023年に創設されました。

本センターのウェルネスライフ部門では、中山間地域における生活課題の解決に向けた実践モデル（新見モデル）の構築のひとつとして、地域ぐるみで「人生の最後まで口から食べる幸せを守る」ことを目指し、「NiU-KTSM プロジェクト」を推進しています。さらに、2025年度からは「摂食嚥下障害看護」認定看護師教育課程を開設することが決定しました（詳細はP2参照）。この取り組みの一環として、2024年11月9日（土）に『つなげる・ひろげる・つづける—中山間地域での食支援を考えるシンポジウム』を開催しました。



一般社団法人
新見医師会 会長
吉田 徹氏
(医師)



宮原歯科医院
宮原 康太氏
(歯科医師)



医療法人真生会
新見中央病院
松本 真季氏
(言語聴覚士)



医療法人社団 淳和会
長谷川記念病院
上村 瑞子氏
(看護師)



倉敷医療生活協同組合
阿新虹の訪問看護ステーション
須藤 美帆氏
(訪問看護師)



新見公立大学
全世代型地域包括ケア研究センター
飯田 尚美氏
(摂食・嚥下障害看護認定看護師)



シンポジウムは2部構成で行われました。第1部では、新見地域の医療の現状と地域ぐるみの食支援における認定看護師の役割についての講演が行われました。第2部では、食支援に関わる各専門職の役割と実践、課題についてパネリストが発表したのち、今後の多職種連携・協働のあり方などについて議論が交わされました。会場からも活発に質問が寄せられ、地域での食支援体制を充実させるためには、さまざまな方面での支援が必要であり、多職種の連携・協働が不可欠であることが再確認されました。

私たちは今後も、食の支援活動の実践とその普及に向けて、地域社会や関係機関との協働を深めながら、持続可能な支援の仕組みづくりに取り組んでまいります。



新見公立大学 NiU「鳴滝塾」X
つなげる、ひろげる、つづける
中山間地域での食支援を考えるシンポジウム
主催：全世代型地域包括ケア研究センター

NPO法人 口から食べる幸せを守る会 第13回全国大会のご案内

このたび、新見公立大学共催で、「NPO法人 口から食べる幸せを守る会 第13回全国大会」を開催いたします。本大会のテーマは、「地域ぐるみの食支援～世代を超えて口から食べる幸せを！～」です。講演やシンポジウム等を通じて、より良い食支援のあり方について共に考える機会になれば幸いです。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。詳しい内容や参加申し込み方法などについては、大学ホームページをご覧ください。

- 開催日時：2025年7月5日（土）
- 開催場所：三木記念ホール（岡山県岡山市）



地域福祉学科

地域における施設の役割について 実践を通して考えました 【介護福祉実習Ⅲ】

地域福祉学科では、介護福祉士国家試験受験資格の取得を目指す3年生9名が介護福祉実習Ⅲを行いました。この実習では、各実習施設内で生活をされている利用者への介護過程の展開に加え、地域における施設の役割について考える貴重な機会となりました。

実際に、上加茂地区にあるかもがわ荘の実習において、地域住民対象に行われた認知症カフェへ参加させてもらうことで、福祉対象者の生活を住み慣れた地域で支えるためには、住民同士の繋がりづくりや居場所づくりが大切であることを学ぶことができました。地域で活躍する介護福祉士の実践を見学し、学んだことを今後の学修に活かしていきたいと思いをします。



看護学科

はじめての聴診： フィジカルアセスメント

看護学科1年生を対象に、フィジカルアセスメントの演習を行いました。

この授業では、聴診器などの簡単な看護用具を使用し、対象者の健康状態について査定する方法について学んでいます。今回は呼吸音・心音の聴診をはじめとした呼吸・循環器系の査定を実施しました。「音の聴き分けが難しい」との感想が聞かれましたが、真剣に、楽しみながら演習に取り組んでいました。この積み重ねが今後の臨床実習の場で役立つと期待しています。



ペア同士で呼吸音を聴診している様子



モデル人形を用いた聴診の練習の様子

健康保育学科

にいみ ゆめのぼけっと2024を 開催しました

「にいみ ゆめのぼけっと」は、子どもたちの育ちを意識したあそびコーナーや舞台発表を企画・実施する過程を通して、子どもへの理解を深め、総合的な保育力の向上を図ることを目的としています。

うんどうあそび、ものづくり・かがくあそび、音あそび、おはなしコーナー、カプラ・KUMINO コーナー、パネルシアターのほか、ダンスや歌などの舞台発表を行いました。

新たに、音楽劇、影絵にも取り組みました。

当日は324名の方々にご来場いただき、地域の子どものために楽しんでもらうことができました。

うんどうあそび
忍者になりきって、思いっきり体をうごかして遊びました。



影絵
ペンギンのペン太くんをはじめ、さまざまな動物を手影絵で表現し、演じました。

音楽劇
個性豊かな演技と息の合った演奏で、会場のみなさんを魅了しました。



災害時の救急対応と看護実践： トリアージと包帯法の演習

「救命救急医療論」では、救急医療と災害看護に関する基礎的知識を学びました。前半は救急看護を学び、後半は災害事例を用いた演習を行いました。日本赤十字社岡山支部の方を招き、災害現場での対応や救護活動について講義を受けた後、トリアージや包帯法の演習を行いました。学生は、災害時の被災状況や被災者の状況をイメージし、包帯法での処置の仕方学ぶことで、災害はいつどこで発生してもおかしくないこと、自分事として意識していました。

トリアージ
演習の様子包帯法
演習の様子

ひだまりのいえ 開設1周年記念 特別講演会を開催しました

2024年11月13日(水)に「富坂子どもの家」(児童発達支援・相談支援施設：東京) 施設長の勝間田万喜先生、ノートルダム清心女子大学附属幼稚園主任の蜂谷里香先生、若竹の園主任の茂呂智子先生をお招きし、本学の高月教恵名誉教授により「子どもの自己教育力を認め守るために求められること」をテーマにシンポジウムが行われました。また、翌日には、「子どもの自己教育力を見守り育て支援とは(2)」をテーマに、健康保育学科の1年生、4年生を対象として勝間田先生に講義をして頂きました。学生たちは実際の現場でのエピソードなどを通して、保育についての学びを深めました。

実際にモンテッソーリ
教具を用いて学ぶ様子

講演の様子

餅つき(1年生)

近年、餅つきをする機会は減少しており、私にとって小学1年生以来でした。実際に餅をついたり、丸めたり、食べたりと五感を使って体験することができました。

地域の方々には、餅のつき方や丸め方、様々な食べ方等の餅つきに関することや地域での生活について教えていただき、学生、教員の方々、地域の方々と一緒に、コミュニケーションをとりながら楽しく餅つきを行うことができました。皆について、丸めたお餅はとても美味しかったです！

このような、日本に古くから伝わる伝統行事を、これからの社会を担う私たちが、人と人、人と地域をつなげる資源の一つとして捉え、地域と福祉を考えていく必要があると感じました。

つきたての餅を
丸めている様子

地域の方に教えてもら
いながら杵で餅つきを
している様子

地域福祉学科

下熊谷クリスマス会

クリスマス会には、地区の子どもをはじめ高齢者の方まで幅広く参加してくれました。

私はレクリエーションを担当しました。レクリエーションでは宝探しとサンタ福笑いをを行い、子どもから大人まで楽しめるよう企画しました。

また、ケーキ作りや工作ブースでは、参加者が自分の手でミニリースやミニツリーを作成したり、ケーキの飾り付けをしたりして楽しむ姿が見られました。

地域の方々の声として、楽しい時間を過ごすことができました。また参加したいといった声も多く聞かれ、企画して良かったと感じました。

地域の方々とクリスマス飾りの作成をしている様子



地域のクリスマス会で住民の方々と交流している様子

看護学科

生活支援看護学実習： サテライト・デイで学ぶ 高齢者の健康課題と地域の強み

生活支援看護学実習では、地域で暮らしている高齢者を対象として、毎回特定のテーマに沿った健康教育などを学生が企画・実施しています。コロナ禍は時間短縮していましたが、2024年4月からは従来通りの1日のプログラムとなり、健康チェックや昼食など、参加者の方と触れ合う時間が増えました。プログラムの実践と参加者の方々との交流を通じて、地域に住む高齢者の抱える健康課題やそれぞれの地区の地域性、地域のもつ強みについて学んでいます。



健康チェック
(血圧測定)の様子



足の指の力を鍛える
レクリエーションの
様子

大学院健康科学研究科

看護・福祉セミナーを開催しました

今年度初めての試みとして、大学院を目指す学生・社会人を対象に『看護・福祉セミナー』を開催しました。3回の各テーマは、「大学院で考える」、「中山間地域を考える」、「看護・福祉を考える」でした。本学の卒業生や在学学生、看護・福祉の現場で活躍される専門職者、延べ20名が対面やWEBを使い参加されました。

少人数のアットホームな雰囲気の中、模擬講義、現役院生との対談、入試説明、個別相談の時間などがあり、大学院での学びのイメージを感じていただきました。次年度も開催する予定です。是非ご参加ください。



熱心に耳をかたむけられていました

健康保育学科

哲多地区学園音楽会に参加しました

2024年11月6日(水)に新見市哲多地区で行われた哲多地区学園音楽会に、健康保育学科の4年生17名が参加しました。学生たちは、「みんなのいろをさかせよう」というテーマでダンスや歌を披露したり、子どもたちと一緒に手あそびを楽しんだりしました。また、子ども園の園児の皆さんや、小学生の皆さんの素敵な演奏も鑑賞し、素晴らしい時間を過ごすことができました。



にじのくにの
バスが来ました



心を込めて歌いました



第5回リアルボイス・学生福祉国会に参加し最優秀賞を受賞しました

今氏 聡 (地域福祉学科 3年)

2024年12月7日(土)、8日(日)に開催された、「第5回リアルボイス・TODOKERU 発表会 & SHIRITAI 勉強会 & 学生福祉国会 in 岡山」に参加し、学生福祉国会のプレゼンテーション大会にて2グループ同時受賞という形で、最優秀賞を受賞することができました。

今回のプレゼンテーマは「生活の中でヤングケアラーを見つける新システムとは？」です。私たちは、ヤングケアラーに関する支援などの課題と合わせて発表内容を話し合い、リアルボイス実行委員会の方にはスクールソーシャルワーカーの方を紹介していただき、ZOOMで対談も行いました。

グループメンバーは学科・学年も違い集まる日程調整が大変でしたが、回数を重ねるごとに個々の違った視点の意見や力が発揮され、面白い発表内容が出来上がったと思います。

今回の活動を通してヤングケアラーの周知や支援が足りていないことが分かり、社会や私がどのように関わっていけるのか、これからも考えていきたいと思いました。



表彰式の様子

Towards
Your Dreams

夢に向かって

LINKtopos2024

LINKtopos (全国公立大学学生会) とは地域に根ざし、地域で活動する公立大学学生のネットワークです。今年度は、岩手県立大学で開催され、活動紹介のポスターセッション、テーマ別のワークショップなどが行われました。

久世 樹沙 (看護学科2年)

私は、震災ワークショップに参加しました。釜石市鶴住居地区を訪れ、東日本大震災の話と避難経路の追体験を通して、自分の地域で災害が起きたときに取るべき行動を学びました。また、活動発表のポスターセッションを通して、全国から集まった学生の活動を知る事ができ、私たちが行っている活動について、客観的に考える事ができました。

丸山 祐季菜 (地域福祉学科2年)

私は、岩手県の伝統文化であるさんさ踊り、藍染体験を通して文化の継承について学ぶワークショップに参加しました。LINKtopos では他大学・他分野の学生と交流することができ、今までの自分にはない視点で物事を考えることができるようになりました。

ポスターセッションの様子



藍染体験の様子



この先生に聞きました

看護師の専門性と徳

—臨床実践における逡巡と成長—



看護学科 教授
塩見 和子

私の研究の出発点は、臨床における看護実践の過程で、看護師が専門職として備えておくべきものがあるのではないかと感じたことにあります。看護の仕事に携わることは、悩みを伴うことでもあります。看護師は患者の健康問題を理解し、少しでもよくなってほしいという願いをもっています。そのため、その人にとってのよいケアとはどのようなことかということについて熟考します。そして、チームで計画したことを行い、ケアがその人のためになることを期待します。しかし、ケアが可能な時間、つまり、生命の時間は患者さんによって様々です。ですから、患者さんの健康状態の経過を予測し、病状を見極める判断力とともに、その中でできることは何かを考える計画力が求められます。専門職としての看護師は、患者さんにとって、よりよい支援の方法を選択し、提案していきませんが、患者さんは意思伝達ができる人ばかりとは限りません。患者さんが思っていることをこちらが予測して理解しようとしなければ見過ごしてしまうケースもあるのです。このような患者さんについては、日頃から患者さんに向き合ってきた経験から、いま患者さんが、感じているであろうことを予測し、汲みとろうとする心がけが必要になってきます。看護師はこのような過程に携わるので、悩むことの尽きない職業です。

また、看護の難しさは患者さんの多様性にもあります。療養されている患者さんの心身の病状はもとより、一人ひとりの生き方や価値観も多様です。医学的知識やケアの方法を十分身につけることが重要なのは言うまでもありませんが、それとともに、一人ひとりの患者さんの個性への対応が極めて重要なこととして問われるのです。しかし、患者さんの多様性を守ろうとすれば、そこには必ず逡巡が生じ、逡巡があれば看護師の悩みは尽きません。もちろん、それが看護の難しさであるとともに、深さでもあり、やりがいでもあるのです。例えば、患者さんが治療選択をする場合、治療に関する技術的なジレンマを感じ、患者さんとともに悩むことがあります。それは、治療選択がその人の生に直結するからで、看護師もまた、そのジレンマをほんの一部ですが共有するからです。とくに看護師の悩みが深刻なのは、治療選択すらままならない意思疎通が図れない人への看護です。患者さんの意向を大切にしたいと願えばこそ、そこに逡巡が生じます。ケアの過程において、自分の施したケアが患者さんの意向に添っているのかどうか、どのように感じているのかと迷うのです。ケアをする看護師は、患者さんが感じているであろうことを想像し、患者さんにいたわりの言葉をかけながら患者さんとの関係のもち方を模索し、自分の手を通して心によるケアに努めています。そうでなければ、看護する側が一方的によいと思いついて押しつけてしまう独りよがりなケアになってしまう恐れがあるでしょう。身体的に不利な立場にある人々

の健康問題に介入する看護師は、逡巡をなくすことはできないでしょう。しかし、逡巡を逡巡として終わらせず、ジレンマを超える力を持つためには、看護師自身の看護に対する信念や価値観、これまでのケースから得られた経験による確信、さらには看護師のキャリアから体得される看護師としての徳が必要でしょう。

徳とは、習慣付けによって後驗的に獲得された、その人の人柄や品性、個人のもつ一貫した行動傾向や心理的特性のことです。看護師の行為にはその人の人柄が表出しているものなのです。このことをギリシャの哲学者アリストテレスは、「その人の性格は、その人の行動の結果である」と言っています。個々の行為に各人の人柄＝特性が表出するのは、徳が習慣付けによって体得されるものだからです。この点について、アリストテレスは「習慣（エトス）はあたかも自然（フュシス）の如し」と述べています。例えば、最初は上手くできなかったことも練習の積み重ねによって、やがて手順を思い出さなくても自然にできるように、習慣付けによって「第二の自然」を獲得するということです。徳とは、このような「第二の自然」なのです。看護師の徳について私の経験に基づくものですが、看護師には次のような諸徳がとくに求められると考えています。

人のいのちの「尊さ」と、いのちの「厳かさ」に向き合う「尊厳」。ケア技術のマニュアルを超え、状況適合性のある判断を発見する「賢慮（フロネシス）。自分の感情や周囲の状況に翻弄されない「自制心」。すべての人に公平に接する「正義」。患者の苦しみを深く理解し、共有する「共感」。相手の幸福を考え、見返りを求めない「奉仕」。常に誠意ある丁寧な気遣いを心掛ける「誠実」。患者の病状を受け止め、患者から逃げない「勇気」。

看護師が逡巡することは避けられないものです。それはジレンマを伴う職業だからです。とはいえ、逡巡しない看護師よりも、逡巡する看護師の方が人間的にも専門職としても、はるかに成長のチャンスに恵まれているとすることができるでしょう。この逡巡を単なる堂々巡りに終わらせない力が「看護師の徳」というものです。

これからの看護教育に必要なのは、いかなる状況においても、状況適合性のある最善の看護が選択できる（徳の豊かな）人を育てることでしょう。そして、そのためには、他者の痛みへの感受性や、他者の身になって考えることのできる想像力など、広い意味での人格教育もまた、看護教育にとって不可欠な一環だと言わなければなりません。



兵庫県南あわじ市立
阿万保育所
坂本 幹太さん
(健康保育学科1期生)

私は今、地元の兵庫県に戻って、保育士として勤務しています。主な仕事内容は、子どもたちの心身の健やかな発達に必要な支援、環境づくりをすることです。今は1・2歳児を担当していて、日々、子どもたちが様々な遊びや関わりを通して成長する姿を見守っています。まだ2年目で、わからないことも多いですが、今の自分の保育の基礎を作ることができたのは、新見公立大学で地域に密着した保育を経験し、幅広い知識を学べたことにあと思っています。授業や実習だけでなく、ボランティアや大学行事を通して、地域の方々と関わることができたのは、自分にとってとても良い経験になったと感じています。



同窓会 だより

令和6年11月2日(土) グランヴィア岡山にて23年ぶり3回目の同窓会を行いました。台風による欠航が相次ぎ1人は参加できませんでしたが、14名が全国各地から参加してくれました。卒業から30年の空白もあつという間に埋まりました。大学のご協力に感謝いたします。
新見女子短期大学 幼児教育学科 12期生
八木 佐織さん



本日、楽しい思い出深い同窓会を開催出来ました。遠方から担任の松本先生に参加いただき、会が盛り上がりました。
参加者の近況と今後について聞いて、それぞれにパワーをもらって、明日からの意欲となりました。
大学5号館の新しい施設の見学をさせていただき、みんな驚きと感心でした。母校の発展に喜びでした。益々の発展を祈願します。
次回開催を楽しみに閉会しました。
新見女子短期大学 看護学科 8期生 土井 直己さん

おやこ・きょうだいの
入学を紹介します
Familia



森本(小林)弓美子さん(幼児教育7期生)
亀井(森本)沙也加さん(地福12期生)
今野(森本)聖子さん(地福14期生)

母が幼児教育学科、私たち姉妹も同じ新見公立短大の母とは学科は違いますが地域福祉学科を卒業しました。現在は新見で母は保育士、姉は介護福祉士として働いたのちケアマネジャーとして頑張っています。

私も卒業後、介護福祉士として7年新見で働いた後、岡山市の病院で看護助手として働きました。4月からは病院のケアマネジャーとして働く予定です。

現在は新見からは少し離れたところで生活していますが、これからも新見短期大学で学んだことを活かしていきたいと思っています。



新見市立西方小学校
小塚 翔子さん
(看護学科11期生)

私は現在、新見市の小学校に勤務しています。新卒1年目でわからないことや大変なこともあります。周りの先生方や養護の先輩方に助けられながら、子どもの心身の健康や成長に関わることができる養護教諭の仕事にやりがいを感じています。新見公立大学の実習生の受け入れも経験させていただきました。養護教諭を目指す後輩の応援ができることに嬉しさを感じるとともに、自分自身の学びや養護教諭観をさらに深めることができ、良い経験になりました。今後も学び続ける姿勢を大切に、様々な健康課題を抱える子どもたちと真摯に向き合っていきたいです。

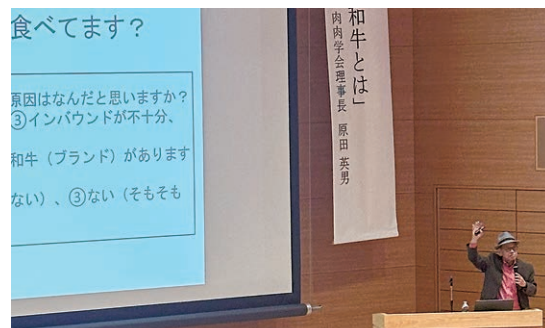


NiU 鳴滝塾 XI 市民講座を開催しました！

新見公立大学 NiU 鳴滝塾 XI
共催：竹の谷蔓牛活用推進協議会

主催：地域共生推進機構
助成：JRA 日本中央競馬会

「隠れた財産 新見の和牛～希少遺伝子が拓く新見の未来～」と題した市民講座が2024年12月12日(木)18:30～20:50に開催されました。開催趣旨は、和牛の産地としての新見の和牛文化や和牛改良の歴史、消費ニーズの変化など、多面的視点から議論を行い、「竹の谷蔓牛」の希少性の理解を深め、新見市の財産として、保存・増頭・利活用の方法を考えることです。最初に、肉肉学会理事長で(一財)畜産環境整備機構副理事長の原田英男氏に「今、求められる和牛とは」をテーマに、(一社)全日本・食学会副理事長で(株)人形町今半社長の高岡哲郎氏に「当店の沿革から紐解く肉食の歴史」をテーマにご講演頂きました。その後、フードクリエイターの戸田康利氏、立命館大学教授の和田有史氏にご登壇頂き、会場参加者との質疑応答を行いながら、竹の谷蔓牛の可能性について活発な議論が交わされました。



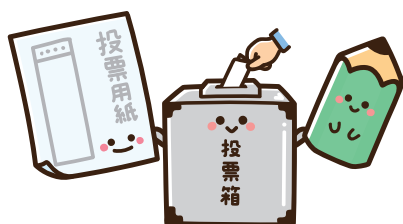
岡山県内で初めて移動期日前投票所が開設

10月に実施されました衆議院総選挙及び岡山県知事選挙において、岡山県で初めて新見公立大学内に移動期日前投票所が開設されました。

これは、新見市選挙管理委員会が、若者の投票率向上を目的に本学を含め、市内の高校や特別支援学校において、開設しました。

本学では、昼休みや放課後の時間に合わせて選管職員がワゴン車で訪れ、校舎前にテントを張って記載台や投票箱を設置し、学生が投票に訪れていました。

また、11月には、新見市長選挙においても移動期日前投票が実施されました。これらの選挙をきっかけに、学生が政治や社会などに関心を深めてもらう良い機会となりました。



NiU 新見公立大学の新キャッチコピーが決定しました!!

新見公立大学の2025年度の広報活動に使用する新しいキャッチコピーを学内で募集しました。3学科より27点の作品の応募があり、その中から最優秀作品2点、優秀作品1点が選ばれました。受賞学生3人には、公文裕巳学長より、景品の商品券が手渡されました。

- 最優秀作品 「切り拓こう、未来 見つけよう、可能性」
- 最優秀作品 「新見から全国へ～未来を創る学びを求めて～」
- 優秀作品 「夢を描き、夢を育み、夢を実現する大学」

最優秀作品に選ばれた学生がキャッチコピーへの思いを次のように語ってくれました。

「切り拓こう、未来 見つけよう、可能性」

私たち学生の開かれた未来を表現し、たくさんの方に新見公立大学の魅力を伝えたいと思い応募させていただきました。賞に選んでいただき、このキャッチコピーの言葉のように、自分の可能性を信じて学び続けていきたいと改めて感じました。【あるふあずさん】

「新見から全国へ～未来を創る学びを求めて～」

新見公立大学に来て、自分の将来の夢・目標を叶えられる学びが出来る場所だと感じているので、このキャッチコピーに願いを込めました。【あるふおーとさん】

新キャッチコピーは、最優秀作品の2点の作品を融合させ、

**未来を創る学びを求めて
～切り拓こう、未来 見つけよう、可能性～**

となりました。

変わる新見駅周辺 大学生の挑戦

地域共生推進センター SA (スチューデント・アシスタント) を中心に結成した「にいまちマルシェ学生実行委員会」は、新見駅周辺を中心に、ウォークラブルな (歩いて楽しめる) 地域づくり、低未利用地の活用、世代間交流の促進、学生目線での提案を通じて、地域のにぎわい創出を目指しています。

私たちの活動内容として、駅周辺のまち歩きマップの制作のほか、夏祭りやハロウィンマルシェなどのイベントを開催し、低未利用地 (都市公園や河川敷) の活用や地域交流を促進し、さらにアンケートを通じて地域課題やニーズを調査しています。今後も地域住民や行政と連携し、多世代が楽しめる企画や学生ならではの柔軟なアイデアを推進し、新見市の持続可能なまちに寄与していきます。

これらの活動のほかに、新見駅周辺みらいプロジェクトに参加しています。このプロジェクトは、民間の団体や行政、企業、市民、大学、学生と新見市が連携して作られたエリアプラットフォームです。新見駅周辺を核としたにぎわいの創出や新たな取り組みを通して、新見市への関係人口の増加を目指しています。今年度はリバーサイドバーの開催や、河川敷や駅前の公共空間活用実証実験などの取り組みを行いました。



新見駅周辺まち歩きマップ



▲新見駅周辺みらいプロジェクトでの発表の様子

にいまちマルシェ学生実行委員会・会長
地域福祉学科2年 的場 天音

▼河川敷でのハロウィンマルシェの様子



まち歩きマップの掲載ページ QR コード

まんさく

2025年3月号
Vol.68



編集
後記

本誌が皆様のお手元に届く頃には、暖かい春の日差しを浴びて、大学の草木も芽吹き始める季節になっていることと思います。今回の特集では、「摂食嚥下障害看護」認定看護師教育課程および鳴滝塾でのシンポジウムについて取り上げました。ここでは、2024年度の本学の主な取り組みについて振り返ってみたい。

全世代型地域包括ケア研究センターのウェルネスライフ部門では、2023年度に開始した「人生の最後まで口から食べる幸せを守る(NIU-KTSM) プロジェクト」として、食事支援のための実技セミナーの定期開催に加えて、2025年春には、西日本で唯一の「摂食嚥下障害看護認定看護師教育課程」を開設することとなり、その一環として、中山間地域での食支援を考えるシンポジウムを開催しました。

地域福祉学科の介護福祉士を目指す学生と看護学科の訪問看護・地域看護コースの学生が、食事サポーターの講義と演習を合同で受講しました。

健康保育学科では、病気や障害のある子どもの支援についての学修の充実を図るために、NIU 新見駅西サテライトの発達支援センター「なごみ」や「ひだまりのいえ」の本格的活用を行ってきました。

卒業生の皆様、地域の皆様には、今回ご紹介しました取り組みをはじめとした本学の教育および様々な活動につきまして、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。(加藤)

発刊

新見公立大学

〒718-8585 岡山県新見市西方1263-2

TEL.0867-72-0634

FAX.0867-72-1492

URL : <https://www.niimi-u.ac.jp/>



編集

広報委員会

広報部長

三上 ゆみ

広報委員(50音順)

浅原 佳紀 井上 信次 入江 慶太
加藤 由美 岸本由梨枝 雑賀 正彦
柴田 知瑞 高橋 彩 難波 香
宮武 一江 村上 留美 山根 智幸

大学初の商品化！ くさまそば粉クッキー

新見公立大学地域共生推進センター SA まちづくりゼミナールでは、2023年度より新見市草間地区の「草間カルスト里山の会」と連携し、学生考案の観光周遊ルートや新たな特産品の開発に取り組んできました。2年間の活動の締めくくりとして、ついに2025年2月13日(新見の日)より、学生が考案した「くさまそば粉クッキー」が発売開始となりました。

新見市の製菓店「青柳本舗」さんご監修のもと、草間地域の特産品であるそば粉を使用した、若者からご年配の方まで広く愛される味・形のクッキーが完成しました。草間地区のお祭りで試食アンケートを行い、その結果を基に、協議や試行錯誤を繰り返した自慢のクッキーとなっています。

新見市観光案内所、大原観光果樹園、大学内のヤマザキショップ、青柳本舗にて販売を行っています。値段は1袋5個入り450円、6袋30個入り2700円となっており、収益の一部は草間地区のまちづくり活動に活用します。なお新見公立大学の学生が考案した商品の開発・販売は初めてになります。よろしければ、帰省される際などに大学のお土産としてぜひお買い求めください。

地域福祉学科1年 繁見 祐樹



新見公立大学初の商品化！
学生が考案しました

収益の一部は草間地区の
まちづくり活動に活用されます

～あなたのそばに～
くさまそば粉クッキー

岡山県新見市に位置するカルスト台地・草間地区
地元の大学生が製菓店と試作をくり返し、
名産のそば粉を使ったクッキーを考案しました。

新見公立大学SAまちづくりゼミ × 青柳本舗 × 草間カルスト里山の会



まちづくりゼミナールの
掲載ページへのQRコード

奨学金

【奨学金】

高等教育の修学支援新制度の対象校になっています。該当の学生は授業料減免及び給付奨学金を受けることができます。また、日本学生支援機構などの奨学金制度もあります。詳細についてはお問い合わせください。本学独自の奨学金制度については下表のとおりです。

名称	種別	採用人数	金額	内容
新見公立大学 ふるさと育英奨学金 (申請先:新見公立大学)	給付	健康保育学科4名 看護学科5名 地域福祉学科4名	10万円 (年額)	本学学部入学生の内、入試成績が優秀であり、かつ本学が定める家計基準を満たした学生に給付します。申請に基づき、入試種別ごとに選考します。
新見公立大学奨学金基金 (申請先:新見公立大学)	貸与 (無利子)	制限なし	30万円 (上限)	本学在学生が国内外の研修等に参加する場合、または緊急な事情等により経済的に困窮した場合に貸し付けます。卒業までに返還する必要があります。

【授業料減免制度】

次のいずれかに該当する学生は、授業料の全額又は半額が免除される制度があります。

- (1) 経済的理由により学資の負担が困難であり、かつ学業優秀と認められる者
 - (2) 納期前6 か月以内(新入生の場合は入学前1年以内)に、学資負担者が死亡または重度障害、災害その他これらに準ずる事由により、学資の負担が困難と認められる者
- ※免除実施可能額には上限があり、減免対象基準を満たしていても、減免を受けられない場合があります。詳細についてはお問い合わせください。